

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 11 月 14 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463577

研究課題名(和文) 訪問看護師と介護職との協働を促進する訪問看護師への教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of training program for visiting nurses to promote collaboration with homecare workers

研究代表者

小原 弘子 (kohara, hiroko)

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：20584337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、介護職との協働を促進する訪問看護師への教育プログラムの開発であった。本研究の成果は以下であった。文献検討にて、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動の特徴を明らかにした。訪問看護師14名を対象にデータ収集し、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動である[異なる組織・職種間でも情報を効果的に共有していく][ケアの質保証に向けて働きかける][介護職が自立してケア提供できるように働きかける][同じチームのメンバーとして介護職に関わる]を抽出した。介護職との協働に向けた訪問看護師の行動指針となる「介護職とのよりよい協働に向けた訪問看護師向けハンドブック」を作成した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop a training program in order to enhance cooperation with homecare workers. The outcomes of the study are summarized into the following three points: (1) a literature review was conducted in order to identify the characteristics of the behavior of visiting nurses collaborating with homecare workers; (2) data collected by semi-structured interview covering 14 visiting nurses were subjected to qualitative and inductive analysis so that the following 4 major categories along with 9 moderate and 34 minor categories were obtained: (a) effectively sharing information among different institutions or disciplines (b) supporting homecare workers to guarantee the quality of care (c) supporting homecare workers to provide appropriate care by themselves (d) treating homecare workers as a team member; (3) 'A Handbook for Better Collaboration with Homecare Workers' was created, which is intended to be a guideline for visiting .

研究分野：在宅看護学

キーワード：介護職と訪問看護師との協働

### 1. 研究開始当初の背景

わが国では、2025年の高齢化社会を見据え、地域包括ケアシステムの構築を目指している。このシステムが円滑に稼動するためには、退院直後等の医療ニーズの高い在宅療養者に対し、医療と介護が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供が必要である。このような中で訪問看護師は、在宅療養者へのケアにおいて、生活と生命維持を目的としたケアを共に担っている介護職と、病状の変化など、在宅療養中に生じた問題に対して柔軟に対応していくことが求められる。ケアチームでは、チームメンバー同士の円滑な連携や協力だけでなく、メンバー間の役割を超えた活動が求められる(野中、2007)。臺(2002)は、協働は連携を発展させたものとし、協働を「自発的に役割を取り、協力し合って活動すること」としているように、病状が不安定なため、柔軟な対応が求められる医療ニーズの高い療養者に対しては、単に課題や目標を共有し活動を展開するのではなく、訪問看護師と介護職が役割を超えて協力し合う「協働」レベルの活動が必要といえる。介護職の現状は、2005年の医療行為の見直しにより、投薬など一部の医療行為が医外行為となり、2012年4月には一定の研修を受けた介護職がたんの吸引などの一部の医療行為が認められ、介護職を含む介護職の業務範囲は拡大している。しかし、喀痰吸引を実施している介護職は増加しておらず(橘、吉田、2015)。また、介護職は、医外行為であっても、病状の変化や生命の危険を持つ療養者へのケアに不安を抱えている(鎌田、2006)。先行研究では、訪問看護師と介護職との連携に着目した研究(藤田、渡辺ら、2013)や訪問看護師との協働についての事例報告(白井、正野ら、2003)はあるが、訪問看護師が介護職との協働に向けて、どのような行動をしているかについて明らかにしたものはほとんど見当たらなかった。

そこで、本研究では、医療ニーズの高い在宅療養者の在宅療養生活継続に向け、介護職との協働に向けた訪問看護師行動を明らかにし、教育プログラムの基礎となる、行動指針の開発が必要と考え、本研究に着想した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2つである。

目標1: 介護職との協働に向けた訪問看護師の行動を明らかにする

目標2: 介護職との協働を促進する教育プログラムの基盤となる、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動指針を開発する

### 3. 研究の方法

(1) 文献検討にて「協働」を定義し、「介護職との協働に向けた訪問看護師の行動」を抽出する

「協働」の定義および「介護職との協働に向けた介護職に対する訪問看護師の行動」を

明らかにするために、文献検討を行った。

(2) 「介護職との協働に向けた訪問看護師の行動」を明らかにする  
県内外で14名の訪問看護師から研究協力の同意を得て面接調査を実施し、得たデータを質的帰納的に分析した。

(3) (2)の結果より、教育プログラムの基礎となる、行動指針を作成する

### 4. 研究成果

(1) 文献検討にて「協働」を定義し、「介護職との協働に向けた訪問看護師の行動」を抽出する

まず、「協働」を定義するために、「協働」「連携」の概念について整理されている文献および引用文献で本研究に有用と思われる文献と関連書籍を取り上げ「協働」の定義を検討した。その結果、「協働」を「職種間で情報交換し合い、作業(ケア)を計画する際に一つの目標を共に設定し、協力関係を構築して、目標達成に向けて資源だけでなく権力・権威・責任を分け合いながら、専門性に基づいて自発的に行動すること」と定義した。

次に、「介護職との協働に向けた訪問看護師の行動」を抽出するために、12文献を選定し文献検討を行った。その結果、介護職との協働に向けた介護職に対する訪問看護師の行動には、【ケア決定の過程を介護職と一緒に進められるように働きかける】【健康問題解決に向けたケア、危険性の対応に、介護職と一緒に取り組めるように働きかける】【介護職と一緒にケアに取り組む中で医療職としての役割を果たす】【介護職が医療処置やケアを安全に確実に実施できるように働きかける】【介護職が抱える不安・負担を軽減する】【介護職と医師とのつながりを作る】【異なる職種・組織に属する介護職とケアを進めていけるように働きかける】【介護職と緊密な関係性を作る】の8つを抽出した。

(2) 「介護職との協働に向けた訪問看護師の行動」を明らかにする

(1)で明らかとなった結果をもとに、インタビューガイドを作成し、A県内外の訪問看護師14名を対象に半構成面接法にてデータ収集した後、質的・帰納的に分析した。

対象者の概要は、看護師経験年数は12~28年、訪問看護師経験年数は4~18年であった。スタッフとして働いている者が4名、副所長または主任の役職を持つものが4名、管理者の役職を持つものが6名であった。ケアマネジャーの資格を有するものは8名であった。

介護職との協働でのケア提供が必要であった背景として、胃瘻からの栄養注入、誤嚥の危険性が高い療養者への食事介助、褥瘡保有療養者へのポジショニング、創部被覆剤の汚染時や不意な除去時の対応、骨折部が未治癒の療養者に対して可動域制限を遵守した

清潔ケアの提供、認知力が低下している療養者の NIPPV および酸素療法や服薬管理の支援、独居または高齢介護者と生活する老衰やがん末期療養者の支援、これらの支援を介護職が訪問時に担う状況があった。このような状況の中で訪問看護師は、介護職が確実にかつ安全にケア提供できるように関わっていた。

分析の結果、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動には、[異なる組織・職種間でも情報を効果的に共有していく][ケアの質保証に向けて働きかける][介護職が自立してケア提供できるように働きかける][同じチームのメンバーとして介護職に関わる]の 4 大カテゴリ、9 の中カテゴリ、34 の小カテゴリがあった(表 1)。

結果より、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動には、介護職が自立して医療ニーズの高い療養者にケア提供するための支援、訪問介護と訪問看護との包括的で連続性のあるケア提供に向けた行動の 2 つの特徴があると考えられた。

(3) 教育プログラムの基礎となる、行動指針を作成する

(2) の結果より、教育プログラムの基礎となる行動指針「介護職とのよりよい協働に向けたハンドブック」を作成した。作成においては、2 名の在宅看護専門看護師にアドバイザーとして参加してもらった。

作成にあたっては、新人訪問看護師からベテラン訪問看護師まで活用できるように、介護職との日々の関わりにおいて参考になるように、という趣旨で作成した。手に取りやすいようにポケットサイズの大きさにし、字はポップ調で箇条書きにするというように、読むことに困難さを感じない工夫をした。

表紙・裏表紙込みで全 20 ページのハンドブックを 350 部作成した。高知県内の訪問看護ステーション 52 箇所および研究に協力していただいた県外の訪問看護ステーション 5 箇所に配布した。

今後は、この行動指針を用いて介護職との協働を円滑に行うための教育的取り組みを実施したいと考えている。

表 1 介護職との協働に向けた訪問看護師の行動

大カテゴリ	中カテゴリ
異なる組織・職種間でも情報を効果的に共有する	異なる職種間でも情報を効果的に共有する
	異なる組織間でも情報を効果的に共有する
ケアの質保証に向けて働きかける	介護職が提供するケアの質を一定に保つ
	療養者の病状とケアとのつながりについて理解を促す
介護職が自立してケア提供できるように働きかける	介護職が判断に迷うことなくケア提供できるように行動の枠を決める
	介護職が不安なくケア提供できる体制を作る
	介護職の業務範囲を踏まえてケアを組み立てる
同じチームのメンバーとして介護職に関わる	療養者・家族に介護職の専門性への理解を促す
	介護職とともにケアを提供しているという意識を持つ

< 引用文献 >

野中猛(2007) 図説ケアチーム、中央法規出版、73、東京。

臺有桂(2002) 他職種・他機関との協働を構築する活動の構成要素：保健婦の地区活動を通して、順天堂医療短期大学紀要: 13 巻、41-48。

橘達枝、吉田浩子(2015) 喀痰吸引に関わる介護職と訪問看護師の協働の実際、厚生指標: 62(15)、1-8。

鎌田ケイ子(2006) 看護と介護の連携に関する調査結果、老人ケア研究、No24、1-17。

藤田淳子、渡辺美奈子、福井小紀子(2013) 介護支援専門員・介護職に対する訪問看護師の連携行動とその関連要因 死亡前 1 ヶ月間の高齢者終末期ケアに関して: 日本地域看護学会誌、16(1)、40-47。

白井由里子、正野逸子、鷹居樹八子他(2003) 医療行為の必要な在宅事例にみる訪問看護師からみた協働のあり方: 日本看護福祉学会誌、9(1)、31-32。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

小原弘子、大川宣容、森下幸子、井上正隆、森下安子、シミュレーション教育を取り入れた「在宅療養者への急変時の対応」研修の評価、高知県立大学紀要看護学部編、査読有、第 35 号、2016、41-48

小原弘子、森下安子、森下幸子、介護職との協働に向けた訪問看護師の行動に関する文献検討、高知県立大学紀要、査読有、第34号、2015、93-102

〔学会発表〕(計2件)

小原弘子、森下安子：介護職との協働に向けた訪問看護師の行動の特徴、第5回日本在宅看護学会学術集会、査読有、東京都、2015年11月

小原弘子、大川宣容、森下幸子、井上正隆、森下安子：シミュレーション教育を取り入れた「在宅療養者への急変時対応」研修の評価、第7回医療教授システム学会、東京都、2015年3月

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

小原 弘子 (KOHARA, Hiroko)  
高知県立大学看護学部 助教  
研究者番号：20584337

### (2)研究分担者

森下 安子 (MORISHITA, Yasuko)  
高知県立大学看護学部 教授  
研究者番号：10326449

### (3)研究分担者

川上 理子 (KAWAKAMI, Michiko)  
高知県立大学看護学部 准教授  
研究者番号：60305810

### (4)研究分担者

森下 幸子 (MORISHITA, Sachiko)  
高知県立大学看護学部 特任准教授  
研究者番号：40712279